

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2026年第2週 2026年1月5日（月）～2026年1月11日（日） 2026年1月15日作成

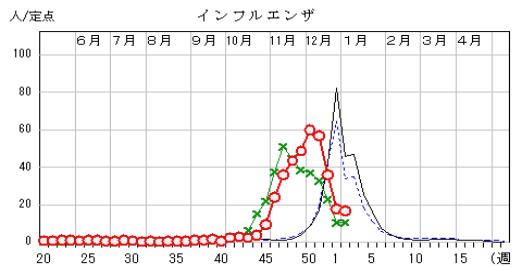
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第2週の報告数は846人で、前週より23人少なく、定点当たりの報告数は16.59であった。

年齢別では、10歳未満（322人）、10～19歳（174人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（42.00）、県南保健所（29.80）、県北保健所（22.00）であった。

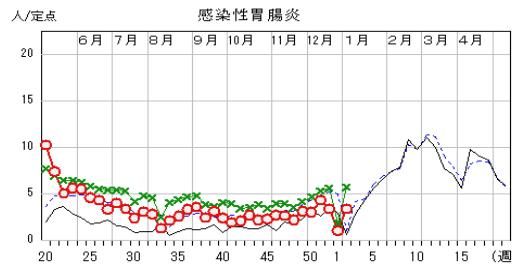


（2）感染性胃腸炎

第2週の報告数は105人で、前週より73人多く、定点当たりの報告数は3.39であった。

年齢別では、2歳（18人）、1歳（13人）、3歳（11人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（9.50）、佐世保市保健所（6.75）、長崎市保健所（5.33）であった。

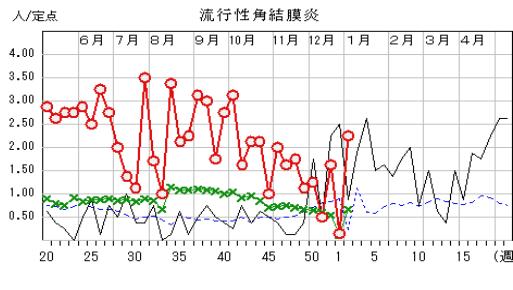


（3）流行性角結膜炎

第2週の報告数は18人で、前週より17人多く、定点当たりの報告数は2.25であった。

年齢別では、30～39歳（5人）、40～49歳（3人）、50～59歳（3人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（3.67）、佐世保市保健所（3.00）、県南保健所（3.00）であった。



※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第2週の報告数は846人で、定点当たり報告数は16.59となりました。4週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が8週間継続しています。地区別では10保健所のうち5保健所が警報レベル、2保健所が注意報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】

第2週の報告数は105人で、定点当たりの報告数は3.39でした。地区別にみると、県北地区(9.50)、佐世保地区(6.75)、長崎地区(5.33)は他の地区より多くなっています。例年冬期に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因是ノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【流行性角膜炎】

第2週の報告数は18人で、定点当たりの報告数は2.25でした。地区別では、長崎地区(3.67)、佐世保地区(3.00)、県南地区(3.00)が他の地区より多くなっています。

本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いので、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないよう気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

★トピックス：急性呼吸器感染症（ARI）に注意しましょう

急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection:ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎）または下気道炎（気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症などが含まれます。法律の改正により、令和7年4月7日からARIが5類感染症に位置づけられ、県内では51医療機関（ARI定点）から、1週間（月～日曜）にARIと診断された患者数が週に1回報告されています。

ARIに含まれるインフルエンザなどの感染症は、冬期に患者数が増加する傾向にあります。予防には、手洗いやマスク着用を含む咳エチケットなどの基本的な感染対策が有効です。ARIの中には、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方が感染すると重症化するものもありますので、場面に応じた対策を心がけましょう。

●厚生労働省 令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策

<https://www.mhlw.go.jp/stf/index2025.html>

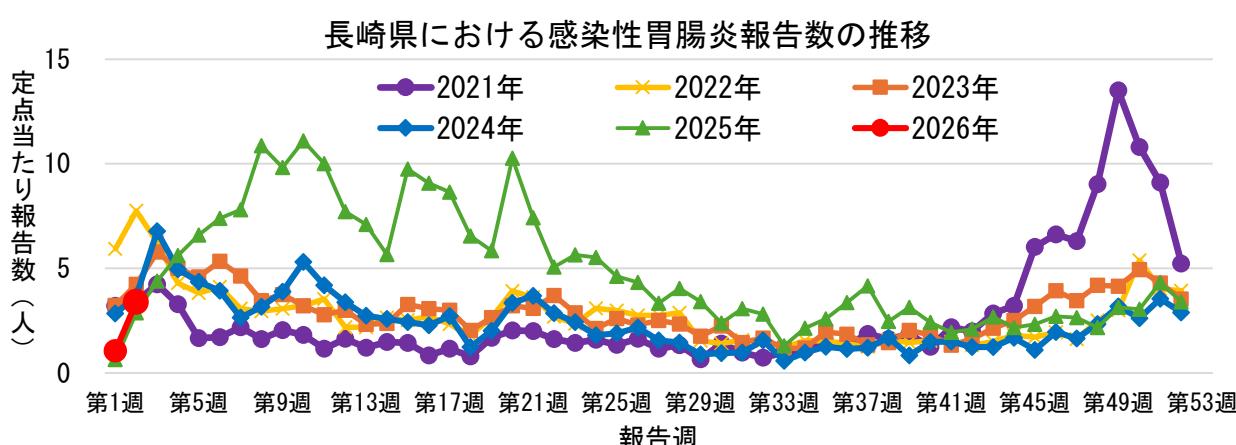
★トピックス：感染性胃腸炎を予防しましょう

感染性胃腸炎は、12月以降に患者数が増加する傾向にあります。本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因是ノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

予防には、手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。



★トピックス：インフルエンザが流行しています

2026年第2週（1月5日～1月11日）の患者報告数は846人で、定点当たり報告数は16.59となりました。4週続けて減少しましたが、警報レベル終息基準値「10」を上回っており、警報レベルの報告数が8週間継続しています。

地区別にみると、10保健所のうち5保健所で警報レベル、2保健所で注意報レベルの報告数となっています。

年代別では、10歳未満（38%）、10代（21%）が多くなっています。

今後も手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

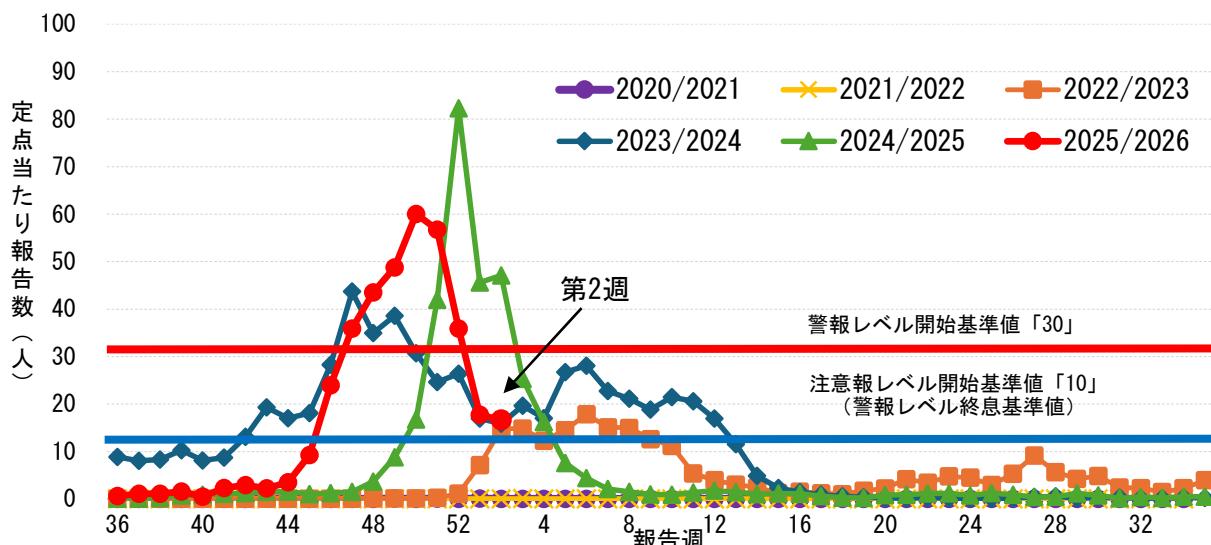
【参考】厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infu influenza/index.html

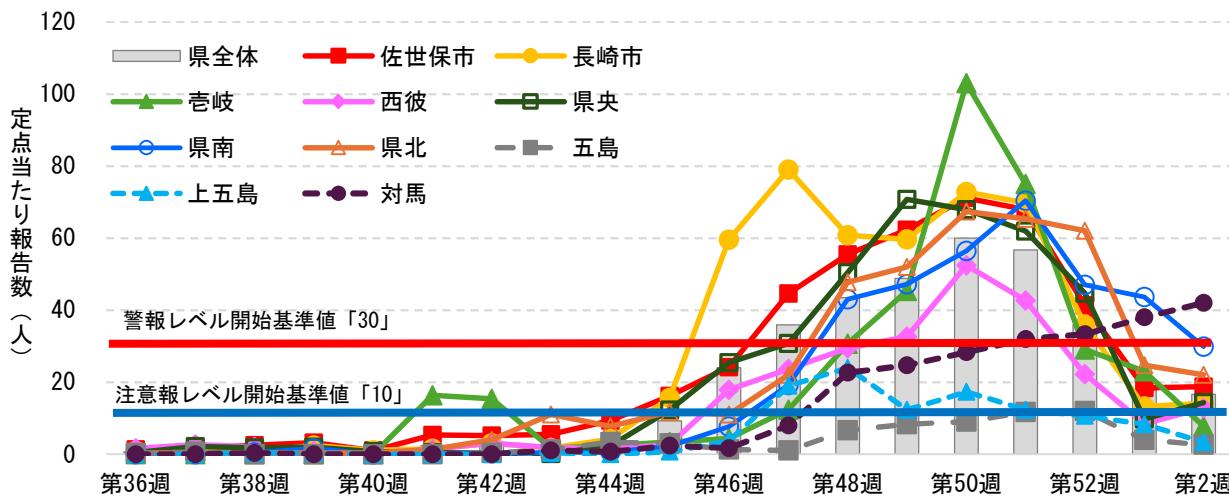
【参考】長崎県地域保健推進課 「2025/2026シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等」

<https://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/744804.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



インフルエンザの保健所別定点当たり報告数推移



インフルエンザの年代別患者報告数

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
報告数(人)	322	174	93	56	55	46	52	27	21
報告割合(%)	38.1	20.6	11.0	6.6	6.5	5.4	6.1	3.2	2.5

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 無症状病原体保有者 男性（40代・1名） 女性（20代・1名）
 3類感染症：報告なし
 4類感染症：報告なし
 5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（30代・1名）
 梅毒 患者 女性（20代・1名）
 百日咳 患者 女性（30代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第49~2週、12/1~1/11)

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数					
	49週	50週	51週	52週	1週	2週
	12/1~	12/8~	12/15~	12/22~	12/29~	1/5~
インフルエンザ	48.73	60.00	56.69	35.84	17.73	16.59
新型コロナウイルス感染症	0.33	0.51	0.47	0.47	0.41	0.94
RSウイルス感染症	0.16		0.06	0.06	0.10	0.03
咽頭結膜熱	0.42	0.48	0.68	0.48	0.27	0.58
A群溶血性レサ球菌咽頭炎	1.97	1.81	1.81	1.81	0.57	1.97
感染性胃腸炎	3.13	3.03	4.32	3.39	1.07	3.39
水痘	0.26	0.23	0.77	0.45	0.47	0.65
手足口病	0.45	0.16	0.13	0.10	0.23	0.03
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.23	1.74	1.16	1.13	0.40	0.84
突発性発しん	0.13	0.39	0.45	0.29		0.23
ヘルパンギーナ		0.06		0.06		0.10
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.03				0.03
急性出血性結膜炎		0.13	0.13	0.13		0.13
流行性角結膜炎	1.13	1.25	0.50	1.63	0.14	2.25
細菌性髄膜炎		0.08	0.08			
無菌性髄膜炎		0.08			0.08	
マイコプラズマ肺炎	0.58	0.67	0.83	0.25		0.33
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08					
急性呼吸器感染症（ARI）	96.14	104.63	98.82	83.18	37.14	61.10

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第2週、1/5~1/11) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾 患 名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	16.59	18.71	14.09	7.67	12.80	14.25	29.80	22.00	2.67	3.33	42.00
新型コロナウイルス感染症	0.94	0.86	1.18	1.33		0.38	2.00	0.67	1.33	0.33	1.67
RSウイルス感染症	0.03	0.25									
咽頭結膜熱	0.58		0.83		0.67		0.67	4.00			0.50
A群溶血性レサ球菌咽頭炎	1.97	3.00	1.33		5.00	1.60	4.00	0.50	0.50	1.00	1.00
感染性胃腸炎	3.39	6.75	5.33	2.50	2.33	3.00		9.50			
水痘	0.65	2.00	0.67	1.00	0.33	0.20		1.00	0.50	0.50	
手足口病	0.03				0.33						
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.84	1.50	0.17		1.67	0.60	0.67	3.50		0.50	0.50
突発性発しん	0.23	0.50	0.17	0.50		0.60					
ヘルパンギーナ	0.10	0.25				0.20		0.50			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03		0.17								
急性出血性結膜炎	0.13		0.33								
流行性角結膜炎	2.25	3.00	3.67			1.00	3.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.33	2.00	0.33				1.00				
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	61.10	71.57	85.27	23.00	80.00	57.50	64.20	47.67	5.33	30.67	58.67